

中濃農林事務所の普及活動状況 令和5年11月25日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■ J Aめぐみの就農塾 第6回夏秋なすコース

11月14日、J Aめぐみの実証圃場にて、就農塾（夏秋なすコース）が開催された。

受講生5名が参加し、土壌診断、圃場選定、圃場の後片付けについての研修を行った。J Aめぐみの、農業普及課が講師となり、作業手順や注意事項について説明を行った。受講生は、講師の説明に熱心に耳を傾け、また、声をかけ合いながら作業を進めた。

農業普及課では、今後も就農塾支援を継続して、受講生のスムーズな新規就農を支援していく。（地域支援係）



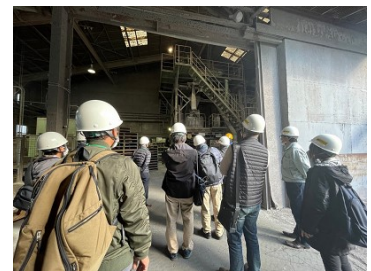
【後片付け作業】

■ J Aめぐみの就農塾 令和5年度就農塾合同勉強会

11月15日、J Aめぐみの就農塾合同勉強会が開催された。

11名の受講生と8名の関係者が出席し、滋賀県にあるタキイ種苗（株）研究農場、肥料製造・販売を行う朝日アグリア（株）関西工場の視察を行った。ほとんどの受講生は初めての訪問で、最先端の育種の状況や有機質肥料の特徴などについて説明を受け、積極的に質問する姿が多く見られた。

農業普及課では、今後も就農塾支援を継続し、受講生のスムーズな新規就農を支援していく。（地域支援係）



【肥料製造工場見学】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■ 水稻（採種） 研修会

（農）美濃種子では、水稻4品種について約58haで種子の生産を行っている。

無事、10月25日で全ほ場の刈取りが終わり、11月8～10日に栽培研修会を開催し、38名の生産者が出席した。今年産の栽培は、生産者のこまめな管理もあって、概ね平年並みの収量を確保する結果となった。

農業普及課では、栽培期間中、平年より気温が高い状況が続き、特に登熟期の気温が高くなった影響や、生育・病害虫の発生状況、種子審査の結果などを報告し、次年産に向けて病害虫・雑草防除対策などについて指導を行い、次年産の栽培暦について変更点などを説明した。

今後も、引き続き種子生産を支援し、優良種子の確保につなげていく。（地域支援係）



【研修会での目揃え】

■ 小麦 播種作業が順調に進む

10月下旬から、管内の令和6年産小麦「さとのそら」の播種作業が開始された。今年は天候に恵まれ、順調に播種作業が進んでいる。また播種後の出芽、初期生育も概ね順調に経過している。

今年度は、昨年度までに実証された穂肥増量による品質向上について生産者への定着を図っていくとともに、収量・品質の高位安定生産を目指した肥料試験を行っていく。

農業普及課ではJ Aと連携し、生育期間を通じて生育状況の把握や適期作業の励行等を指導していく。（地域支援係）



【播種作業】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■円空さといも 研修会・目揃会・総会

10月31日に、円空さといも生産組合の研修会・目揃会・総会が美濃市内のホテル会議場で開催され、組合員32名と関係機関が出席した。

研修会では、農業普及課より、研修会にて長期間の出荷に向けた貯蔵試験の結果について報告し、生産組合としてのGAPの取組みについて情報提供を行った。目揃会では、生産者同士で規格等の再確認を行い、円空さといもブランドの発展に向けての意識統一を図っていた。

農業普及課では、今後も引き続き生産状況や貯蔵状況の確認を行い、円空さといもの生産振興に向けて支援を行っていく。

(地域支援係)



【目揃会】

■円空さといも 瀬尻小学校で学習会を実施

関市立瀬尻小学校では、総合的な学習の時間を活用して、毎年3年生が地域の特産品である「円空さといも」の学習に取り組んでいる。11月6日には座学の授業、21日には掘り取り体験が行われた。

掘り取り体験は、生産者、JAめぐみの、農業普及課が講師となって作業方法を説明した後、実際に掘り取り作業を行った。児童らは4月に自分たちで植えたイモが、思いのほか大きく育ったことに驚くとともに、苦戦しながらも株ごとを掘り取って、収穫の喜びを感じているようであった。

農業普及課では、地域の特産品である円空さといもの普及に向けて、今後も関係機関と連携して栽培学習を支援していく。

(地域支援係)



【掘り取り作業】

■ゆず 品質向上を目指して

かみのほゆず(株)は、10月末に関東商工会上之保出張所で目揃会を開催した。

JAめぐみの担当者より、出荷に関わる注意事項として、個人選別の徹底、集荷時間等について説明があった。上之保ゆずの課題として、青果として販売できる品質の良いゆずの出荷が少ないことが話題となり、生産者を交えて解決に向けた取り組みについて話し合われた。

かみのほゆず(株)は、これまで農薬を使わない栽培に取り組んできたが、試験的に農薬の使用を行い、品質の向上が見られ、販売店の理解も得られるようになったことから、徐々にではあるが農薬の使用を進める方向に取り組んでいることを説明した。

農業普及課からは、品質向上に向けて、化学合成農薬以外の農薬を中心に最低限の農薬を使用する方向で考えたい等の助言を行った。今後、取り組みが進められることで、ゆずの品質向上が期待される。

(地域支援係)



【目揃会】